

新聞の読み方・使い方 II

科目ナンバリング CAE-111

選択 2単位

森 吉弘

1. 授業の概要(ねらい)

社会を知ることは、自分の人生を明るくすることだと言っても過言ではない。後期もさらに新聞を読み進め、将来の選択に光を当て続ける。

そのツールのひとつになるのが新聞。政治、経済、社会、国際、スポーツ・文化と様々な角度から、今の世の中を伝えてくれている。社会人は新聞を読む。社会を知らなければビジネスにならないからだ。義務ではない、必須なのだ。

メディアとどう接していくか、メディアからの情報をどう受け止めるか、様々な記事を取り上げながら、世の中に対する考察を深めていきたい。授業中に時事問題も意識的に取り上げていき、時代感覚も身につけさせる。

また、メディアとどう接していくか、メディアからの情報をどう受け止めるか、発信者の視点で考えていく。NHKのアナウンサーとして情報に接した視点(作り手側)から解説もしていく。なお、その時々ニュースも取り上げていくので、カリキュラムが場合によっては変更することも承知してほしい。

本科目は、実務経験のある教員による授業です。担当教員は企業(業界:マスコミ)において報道業務(主たる業務はアナウンサー)に携わり、授業では、現場における実例や実体験や取材者側の視点を交えて講義を展開したり、報道機関の課題などを題材とした議論を行ったりします。

*受講希望者が200名を超える場合、最初の授業でレポートを書いてもらい、選抜もある。

2. 授業の到達目標

- 1) 記事の周辺事実を把握し、新聞がスラスラ読めるようになる
- 2) 社会の出来事を、多角的に見ることができる
- 3) 1つの事象を、他との現象と関連づけられる(背景の理解)

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業に取り組む姿勢 20%
- (2) 授業内外の課題レポート 80%

4. 教科書・参考文献

5. 準備学習の内容

以下のような事前学習課題を課します。日々の学習を怠ると、講義の内容を深めることはできませんし、成果を上げることが難しくなります。

- ・講義に関連した記事や書籍の読み込み
- ・全国紙(読朝毎、日経、産経、東京)のいずれか1紙を毎日20分以上読むこと(読み慣れたら時間を伸ばしていく)
- ・授業内容の復習はもちろんのこと、学んだことを日々意識して行動(思考も)すること

6. その他履修上の注意事項

大講義室での講義が予想されます。全体の雰囲気を乱すことなく、全員一丸となって 90分に向き合ってください。当然ながら、何かをつかみたいという前向きな学生の参加を望みます。就職活動や社会人になってからも役立つ教養やスキル、習慣を身につけてもらいたいとも考えています。授業を効率的に進めるため学生の協力も得ることが多々あります。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション
- 1) 「新聞は、生きる道具」とは
- 【第2回】 リアクションペーパーの書き方
- 1) リアクションペーパーが意味することは
- 2) リアクションペーパーの書き方
- 【第3回】 自分の新聞の読み方を振り返る
- 1) 新聞は眺めるところからスタート
- 2) 眺めて得られるコトとは
- 【第4回】 記事を読む
- 1) 一面の構成を知る
- 2) 一面から今を読み解く
- 【第5回】 社説を読む
- 1) 社説とは何か
- 2) 社説の各紙の相違点
- 【第6回】 記事を読み比べる
- 1) 各紙(日経、読朝毎、産経)の特徴を知る
- 【第7回】 時代のキーワードを探る
- 1) 何が求められているのか
- 2) どんな時代になっていくのか
- 【第8回】 経済記事を読み解く
- 1) 日本の現状を知る(失われた30年)
- 2) さらなる失われた30年にならないためには
- 【第9回】 経済記事を読み解く
- 1) 日本の窮状を知る
- 2) 不安は心配はビジネス
- 【第10回】 記事を読み解く
- 1) アジア関連の記事を読む
- 【第11回】 記事を読み解く
- 1) 周辺国の発展状況を知る
- 2) なぜアジアに注目するのか
- 【第12回】 各紙主張を知る
- 1) 論説・社説を読む

- 【第13回】 文化面を読む
1)各紙、文化面で集まっていることは
- 【第14回】 スポーツ紙を知る
1)スポーツ紙の位置
2)スポーツ紙から学べること
- 【第15回】 講義まとめ、報道の問題点